

上伊那の探鳥地ガイド～補足編～

Bird hunting in Kamiina - supplement

刊行版で紹介した11の探鳥地において、ひょっとしたら出会えるかもしれない野鳥たちを紹介します。併せて、これらの探鳥地以外でお薦めの上伊那探鳥地の情報も掲載します。

(撮影・執筆 戸谷省吾)

1 ひょっとしたら出会えるかもしれない野鳥たち

① しだれ栗森林公園(辰野町)

○イスカ→

主に冬鳥だが、少数が繁殖しているようである。左右互い違いのくちばしで、マツ等の種子をついばんで食べる。



撮影:戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○ミヤマホオジロ←

冬鳥。眉斑とのどが黄色い。興奮すると冠羽が立つ。

○フクロウ→

日本各地で繁殖している。「ホッホゴロスケホッホ」と低音で鳴く。ネズミを食べ、農耕地の守り神とも言われる。



撮影:戸谷省吾

② 横川溪谷(辰野町)

○オオルリ→

夏鳥。オスの「ピールリー」という美しいさえずりが、春の溪谷に響く。



○キセキレイ←

全国で繁殖する黄色いセキレイ。平地から山地まで溪流等の近くに生息する。「チチッ チチッ」と鳴きながら大きな波形をえがいて飛ぶ。

○ツグミ→

冬鳥。秋から冬には田畑や山地で単独、春先になると群れをつくって行動することが多い。



③ 萱野高原(箕輪町)

○ウグイス→

藪の中にいることが多く、「ホーホケキョ」と声はしても、姿を見ることは少ない。



撮影:戸谷省吾

○マヒワ←

冬鳥。植物の種子をよく食べる。群れを作る性質が強い。



撮影:戸谷省吾

○サンショウクイ→

「ヒリヒリンヒリヒリン」と繰り返しさえずる。ききなしでは、「山椒を喰ってぴりりと辛い」と伝わっている。



撮影:戸谷省吾

④ 大芝高原(南箕輪村)

○カワセミ→

留鳥。大芝湖で魚を狙う姿を、特に冬場は見かけることがある。



撮影:戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○カルガモ↑

留鳥。メスオス同色。「グエーグエッグエ」と聞こえる大きな声で鳴く。



撮影:戸谷省吾

○シジュウカラ↑

留鳥。「ツツピン ツツピン」と鳴いて、いち早く春を告げる。市街地でも普通に見られる。

○アカゲラ→

留鳥。後頭部が赤色のオス、赤くないのがメス。頭上赤いのは幼鳥。



撮影:戸谷省吾

⑤ 羽広自然遊歩道(伊那市)



撮影: 戸谷省吾

○アカゲラ(右)・ コムクドリ(左)←

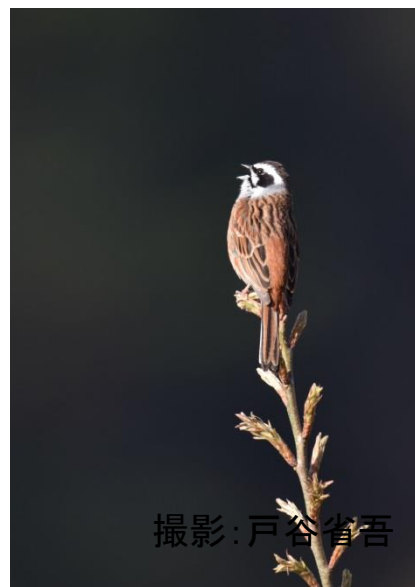
コムクドリは夏鳥で、平地から山地の明るく開けた林、人里近くに生息する。樹洞やキツツキ類の古巣に営巣する。



撮影: 戸谷省吾

○アオジ↑

漂鳥。山地で繁殖し、冬には積雪のない地域で生活する。高くゆっくりと調子よくさえずる。



撮影: 戸谷省吾

○ホオジロ↑

留鳥。オスの顔は白と黒の模様。木の頂などでさえぎり続ける。平地から山地の草地、農耕地、牧場や林縁などに生息する。

⑥ 鹿嶺高原(伊那市)

○イスカ→

冬鳥。①の頁参照。



○ルリビタキ↑

漂鳥。冬は主に低い山地の林に移る。繁殖期には針葉樹林帯で「キョロ キョロ キョロリ」と澄んだ声でさえずる。



○ヤマドリ↑

留鳥。オスの尾は90cmになる個体もある。翼を激しくはばたいてドドドドッ…と羽音をたてて、さえずりのかわりにする。日本特産種。

○ホシガラス↑

しわがれ声で、「ガァーガァー」と鳴く。ハイマツの実を貯食する。亜高山帯・針葉樹林で繁殖する。岳鴉(だけがらす)とも呼ばれる。



○ハシブトガラス↑

留鳥。住宅地から山地までどこでも見られる。頭脳が優れている。

⑦ 伊那峡 (伊那市～宮田村)

○オシドリ→

漂鳥。天竜川では希だが、冬期にわずかに観察できることがある。



撮影:戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○ミコアイサ↑

冬鳥。ミコはオスが巫女の白装束のようなことに由来。湖沼や河川に生息する。



撮影:戸谷省吾

○カワアイサ↑

冬鳥。小群で行動する姿を見かける。「カルル、カルル」と鳴く。



撮影:戸谷省吾

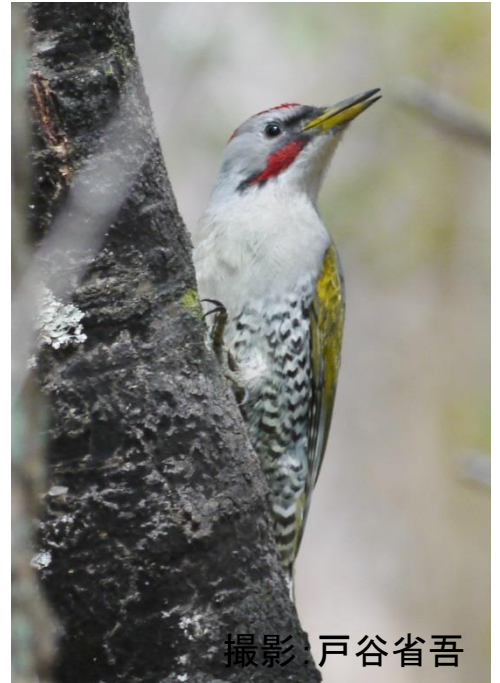
○ヤマガラ←

留鳥。広葉樹林を好む。「ツツピーン ツツピーン」と、日本産カラ類の中では最もゆったりとさえずる。

⑧ 駒ヶ根高原(駒ヶ根市)

○アオゲラ→

留鳥。アリ類を好む。大木に自分で巣穴を掘る。「ピョーピョーピョーピョー」と大きな声がさえずる。



○ゴジュウカラ↑

留鳥。落葉広葉樹林等に生息する。木の幹を下を向いて下りることができる。「フィフィフィ」「フィーフィー」「ピピピピピ」など大きな声で鳴く。



○キビタキ↑

夏鳥。オスは水仙のような黄色の配色が鮮やかで、明るく大きな声でさえずる。落葉広葉樹林等に生息する。

⑨ 千人塚公園 (飯島町)

○ジョウビタキ→

冬鳥。長野県中部の高原地帯では繁殖例もある。ジョウは「尉」で銀髪, ヒタキは「火焚」で、火打石をたたく音に似た音を出すことが和名の由来。



撮影: 戸谷省吾

○アトリ←

冬鳥。飛びながら「キョッ キョッ キョッ キョッ」と鳴く。森林や農耕地で、非常に大きな群れが見られることもある。



撮影: 戸谷省吾

○カシラダカ→

冬鳥。緊張すると冠羽を立てるので、「頭高(カシラダカ)」と名付けられた。地鳴きは「チッ」あるいは「ティッ」と聞こえる高い音を出す。農耕地、河原、林縁などに生息する。



撮影: 戸谷省吾

⑩ 小渋ダム
(中川村～下伊那郡大鹿村)

○イソヒヨドリ→

留鳥。オスの青藍色が美しい。全国で繁殖している。名前のように海岸の崖地に生息しているのが普通だが、人工的な建物にも生息する。



撮影 戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○ヤマガラ←

留鳥。⑦の頁参照。

○カヤクグリ→

漂鳥。日本特産種。亜高山の針葉樹林やハイマツ帯で繁殖する。冬には標高の低い山地などでも見られる。「チュリチュリチュリリリヒリヒリ」などと早口に澄んだ声でさえずる。



撮影:戸谷省吾

⑪ 天竜川

○イカルチドリ→

夏鳥(留鳥)。河川の中流域から上流域で多く見られる。雛は孵化後まもなく巣から離れ、親の後を追って歩き出す。親は巣に外敵が近づくと擬傷をする。



撮影: 戸谷省吾



撮影: 戸谷省吾

○コウノトリ↑

旅鳥。日本で繁殖していたものは、1970年代に絶滅。兵庫県豊岡市で人工繁殖させた個体等が希に飛来する。



撮影: 戸谷省吾

○オオバン↑

留鳥。黒い体に白い額が目立つ。「キューイツ」と鳴く、近年増加の傾向にある。

○アオアシシギ←

旅鳥。「アオ」は緑色。くちばしが長めで、緑色がかった足が長く背の高い。春と秋に旅鳥として渡来し、干潟、湿地、水田でえさをとる。



撮影: 戸谷省吾

2 その他の探鳥地

① 荒神山公園(辰野町)

○アオバズク→

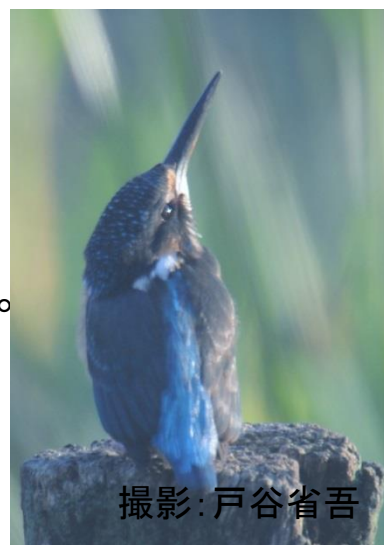
夏鳥。大木の樹洞などに営巣する。辰野中学校前の大ケヤキに繁殖したこともある。



撮影: 戸谷省吾

○カワセミ→

留鳥。たつの海で魚を狙う姿を観察できることもある。



撮影: 戸谷省吾



撮影: 戸谷省吾

○コブハクチョウ↑

たつの海の個体が天竜川に姿を現すこともある。本来は日本に分布していない外来種。



撮影: 戸谷省吾

○カモ類↑

カルガモやマガモなど通年で何種類かのカモ類を観察できる。写真は冬鳥のオナガガモ。



撮影: 戸谷省吾

○カイツブリ←

留鳥。たつの海では繁殖記録がいくつかある。潜水して獲物を捕らえる。水上で生活することが多く、歩行する姿はあまり見られない。

② 春日城趾公園(伊那市)



○サギ類↑

アオサギ(写真後方), ダイサギ(写真手前)をはじめ, コサギ, ゴイサギ, アマサギなど何種類かのサギ類の繁殖が確認されている。



○オオタカ↑

小鳥たちが急に飛び去った時など, 上空を見るとオオタカが旋回していることがある。



○チョウゲンボウ↑

留鳥。周囲のビルなどを利用して繁殖する。停空飛翔して獲物を狙う。



○コゲラ↑

留鳥。「ギーギー」と鳴きながら幹を移動し餌を探す。キツツキ類では日本最小。

③ 大草公園(中川村)



○メジロ↑

留鳥。サクラの蜜が好物。
「チーチー」と鳴きながら群
れで移動していく。



○ヒヨドリ↑

留鳥。花の蜜も好物。
「ピーヨピーヨ」と鳴きな
がら、波状飛翔していく。



○モズ↑

留鳥。鳴き真似(百舌), 早
贄, 高鳴きなどの生態は,
人間にもお馴染み。



○エナガ↑

留鳥。尾羽(柄)が長い。
「チーチー」と鳴きながら,
群れで移動していく。



○アカハラ←

夏鳥。昆虫等を探し
ながら、地面を移動し
ていく。「キョロン キョ
ロン チー」等と鳴く。